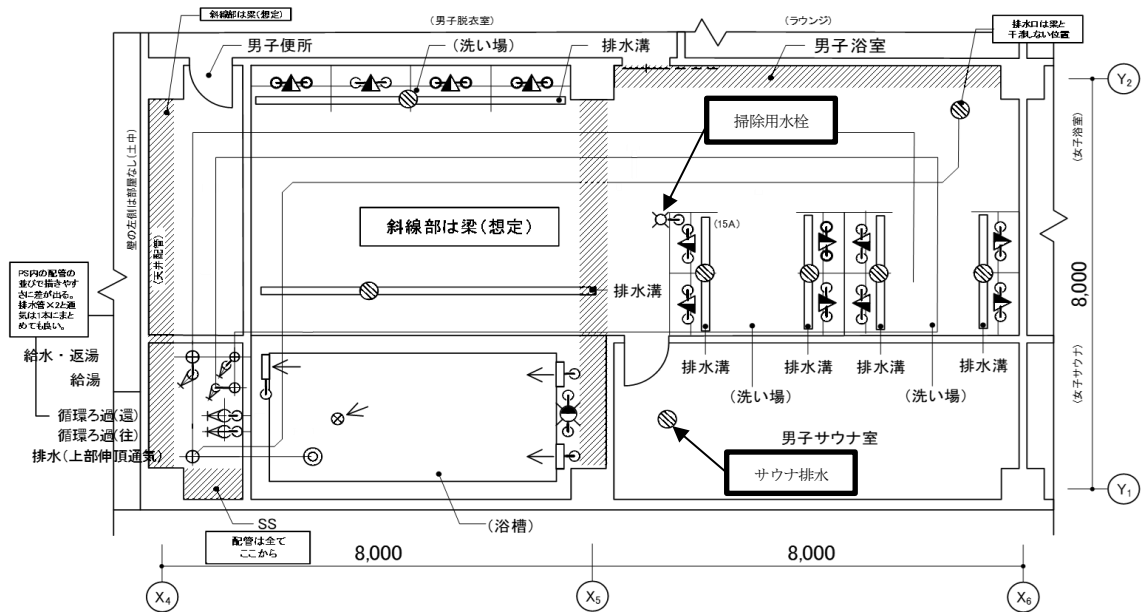


令和 6 (2024) 年 建築設備士第二次試験受験対策講習テキスト 正誤表

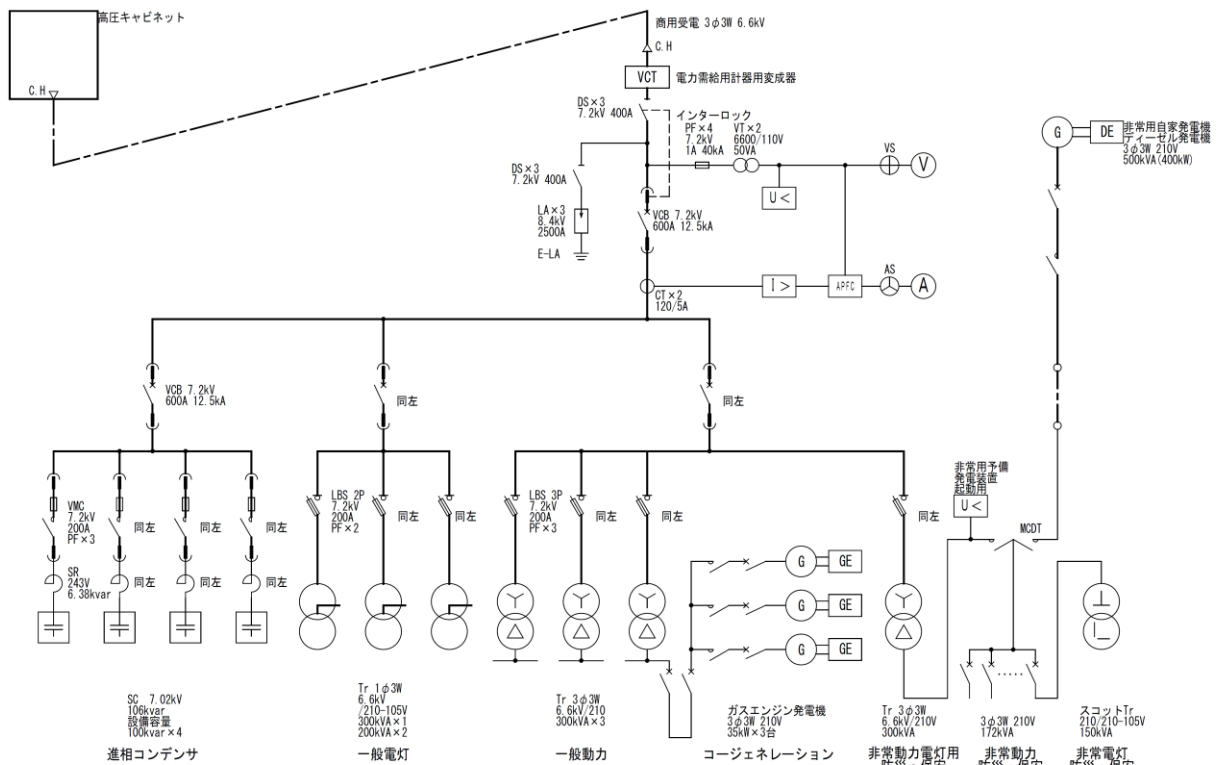
頁	項目	誤	正	更新日
170	2) 水栓類、排水金物、浴槽循環配管を描く P170・上図	配管図の誤り	⇒別紙差替え	2024/7/19
194	2. 建築設備設計条件(12)	浴槽循環ろ過設備は、 <u>5</u> 階の設備室に設ける。	浴槽循環ろ過設備は、 <u>4</u> 階の設備室に設ける。	2024/7/12
219	<<予想問題③>>	…解答例に関しては、 <u>令和元年と令和3年</u> の必須問題第10問解答例を参照されたい。	…解答例に関しては、 <u>令和3年</u> の必須問題第10問解答例を参照されたい。	2024/7/12
219	<<予想問題④>> <まとめ方> ②法規制	建築基準法により建築物、工作物の高さ <u>20m</u> 以上の部分に設置が必要。	建築基準法により建築物、工作物の高さ <u>20m</u> をこえる部分に設置が必要。	2024/7/12
241	2)発電機について	…ここでは例として (<u>非常用変圧器容量+保安用変圧器容量</u>)×1.4倍、すなわち…	…ここでは例として (<u>防災・保安用単相負荷+防災・保安用三相負荷</u>)× <u>延べ面積</u> ×1.4倍、すなわち…	2024/7/12
241	2)発電機について	<u>平成25年</u> の事例で考えれば、表5-7の変圧器構成から、 発電機容量≥ <u>負荷容量×1.4=(100+150)×1.4=350kVA</u> となることから、 <u>350kVA</u> 以上が必要となる。	<u>令和5年</u> の事例で考えれば、表5-7の変圧器構成から、 発電機容量≥ <u>防災保安負荷×延べ面積×1.4=(6VA/m²+11VA/m²)×7,174 m²×1.4=170.7kVA</u> となることから、 <u>200kVA</u> 以上が必要となる。	2024/7/12
249	図 5-18a	単線結線図の誤り	⇒別紙差替え	2024/7/12
300	1 1. 雷保護設備 ②法規制	建築基準法により建築物、工作物の高さ <u>20m</u> 以上の部分に設置が必要。	建築基準法により建築物、工作物の高さ <u>20m</u> をこえる部分に設置が必要。	2024/7/12
420	令和5年度第1問解答 雑用水揚水ポンプ	仕様、算定根拠の誤り	⇒別紙差替え	2024/7/26
422	令和5年度 第2問 解答	飲料水給水設備 系統図 PW <u>吐出側の弁組</u> 	飲料水給水設備 系統図 PW <u>吐出側に逆止弁を追加</u> 	2024/7/12

【注】正誤表は7月26日現在のものです。追加修正がある場合は、適宜、テキスト表紙に記載の主催2団体の各ホームページに、更新版を掲載致します。

P.170 ページ内、上図の差替え



P.249 図 5-18a の差替え



※系統連系に関わる保護継電器の記入が不要の場合

図 5-18a : 低圧非常用発電機とインターロック線の位置

P.420 の差替え

令和5年度

第1問解答

機器名	仕様		算定根拠
雑用水受水槽	有効容量	13 m ³	表 1-1 より 1 日の雑用水の給水量は、 $1500 \times 20 \times 0.7 + 50 \times 80 \times 0.7 = 23,800$ L/日 23.8 m ³ /日 4 階バルコニーの給水量は 2 m ³ /日、雑用水槽は 1 日の給水量の 50% より $(23.8 + 2) \times 0.5 = 12.9$ m ³ → <u>13 m³</u>
雑用水揚水ポンプ	揚水量	160 L/min	雑用水の時間平均給水量は、 $(1500 \times 20 \times 0.7 \div 6 + 50 \times 80 \times 0.7 \div 10) + 1000$ $= 4780$ L/h 時間最大予想給水量は、時間平均給水量の 2 倍であることから $4780 \div 60 \times 2 = 159.3$ → <u>160 L/min</u>
	全揚程	50 m	実揚程：4+4+4.5+4.2+4.2+5+6+2=33.9m 摩擦抵抗 100kPa、吐出圧 10kPa、10%の余裕率より 全揚程 = {33.9 + (100+10) ÷ 9.8} × 1.1 = 49.63m → <u>50m</u>
	電動機の定格出力	3.7 kW	ポンプの揚水量 0.16 m ³ /min、全揚程 46m、余裕率 0.1、ポンプ効率 0.5、伝導効率 1 より ポンプの動力 = $0.163 \times 0.16 \times 50 \times (1 + 0.1) \div (0.5 \times 1) = 2.86$ kW → 表 2 より <u>3.7 kW</u>
雑用水高置水槽	有効容量	4 m ³	時間最大予想給水量 160 L/min、瞬時最大予想給水量 239 L/min、瞬時最大予想給水量の継続時間 30 分、揚水ポンプの最短運転時間 10 分であることから、高置水槽の容量は、 $(239 - 160) \times 30 + 160 \times 10 = 3970$ L → <u>4 m³</u>
自然冷媒ヒートポンプ給湯機	厨房の日給湯負荷	96 kWh/日	日給湯負荷 = $0.00116^{*1} \times 150 \times 10 \times (60 - 5) = 95.7$ → <u>96 kWh/日</u>
	加熱能力	8 kW	日給湯量 96 kWh/日、配管・給湯ユニット等の熱損失係数 1.1、経年係数 1.05、能力補償係数 1.05、ヒートポンプユニットの夜間貯湯運転時間 10h、ヒートポンプユニットの昼間追掛運転時間 5h より ヒートポンプの加熱能力 = $96 \times 1.1 \times 1.05 \times 1.05 \div (10 + 5) = 7.76$ → <u>8 kW</u>

[注記]

上記「算定根拠」中の下線部は、答案用紙への記入時には省略しても構いません。

解答の数値は、四捨五入、切り上げのどちらでも構いません。本解答は切り上げで作成しています。

*1 : 1kcal/h = 0.00116kW = 1 ÷ 860 (もしくは = 4.2 ÷ 3600)